

## 解決志向アプローチ + ピア・サポートのハイブリッドが サポートグループ・アプローチ

「サポートグループ・アプローチ」は、イギリスのスー・ヤング (Young, S. 1998, 2001, 2007, 2009) の実践を基本的なモデルとしています。いじめ予防プログラムとして、英国政府のガイダンスに組み込まれています。いじめが原因の不登校の小学生に対する実践で、50事例のうち47事例 (94%) はいじめがなくなり、そのうち40事例 (80%) ではすぐに効果があったと報告される、非常に優れた実践方法です。

日本においても実践者が増えつつあり、小学校でのいじめや不登校への対応、中学校以上の複雑な人間関係が絡むいじめや不登校、発達障害のある子への対応など、幅広く適応できる方法として実践されています。

ところで、サポートグループ・アプローチという言葉は耳慣れないかもしれませんが、「解決志向アプローチ」や「ピア・サポート」という言葉は、日本でもかなり知られており、すでに実践に取り入れている方も多いでしょう。

サポートグループ・アプローチを一言で説明するなら、「ピア・サポートと解決志向アプローチが合体したもの」、あるいは「解決志向アプローチの考え方や技法をベースに展開されるピア・サポート」ということができます。つまり、学校場面でのさまざまな援助活動に有効とされる、解決志向アプローチとピア・サポートのハイブリッド・モデルなのです！

この章では「1時間でわかる」と銘打って、サポートグループ・アプローチについて簡潔に解説していきます。まず、解決志向アプローチとピア・サポートについて超特急でそのエッセンスをお伝えします。

